「平和と人権」市民ネットワーク情報 No.22-8（通算 88 号）
事務局発行(TEL 0557-45-1182) http://peaceito.moo.jp 2022.7/29

7/10 参議院選を振りかえる

◆7 月 14 日の事務局会議で、参議院選の取り組み、結果の評価、今後の活動、等について話し合いました。レポート(枠内)と話し合いの要点を紹介します。 (戸田弘子さんが新たに事務局に加わりました。)

【Ⅰ】「市民アクション」はどんな活動をしたか

〈1〉できたこと

(1)配布活動

①3 月下旬～4 月上旬、憲法リーフ 2000 部を市内全域にポスティングする。

②6 月 17 日、川奈駅前で憲法リーフ 90 部とポケットティシュ 80 部を配布する。

(2)署名活動

①アクション会員とネットワーク賛同者に「憲法改悪を許さない」署名用紙を郵送し、何人かの人から返送があった。

②平和委員会、原水禁、新婦人の街頭署名活動にジョイントして、署名活動を行う

・2 月 6 日 湯ノ花 ・2 月 21 日 伊豆高原ナガヤ前 ・3 月 6 日 湯ノ花
・3 月 29 日 伊豆高原桜並木 ・4 月 6 日 湯ノ花 ・5 月 6 日 湯ノ花
・6 月 6 日 雨天中止 ・6 月 13 日 キネマ、湯ノ花 ・7 月 6 日 湯ノ花

(3)街宣活動

・毎月 19 日にスタンデイング活動を行う。

・5 月 3 日の憲法集会・市内パレードを実施。

(4)その他

宣伝用のパンフ「憲法改正 Q&A」を作り、会員・賛同者に送った。

〈2〉できなかったこと

①署名活動に個人的に、他団体と共同して取り組んだが、活動者の広がりに欠けた。

②一般市民に見える形での宣伝は、定例的な活動(スタンデイングなど)にとどまった。

③SNS を使った情報発信や、若い人に向けた憲法と生活の問題についての宣伝活動はまったくできなかった。

〈活動をめぐって〉

三好康昭…市民アクションとしてもっと行動できなかったでしょうか。定例の署名活動をやりましたが、やはり動ける人が少ない。

伊藤廣光…署名をやるっていっても集まってくる人は同じメンバーで、たかだか 10 人くらい。状況は変わりませんよね。

三好…「3000 万署名」の時は梶野さんが集約して、毎月何筆に達したと報告したけど、今回はあまり梶野さんの所に入ってきていないのではないか。取り組みが弱かったのではな

いかな。

伊藤…コロナの問題があって戸別訪問すること自体が難しかった。伊豆高原の人たちの間でも「戸別訪問は止めた方が良いのではないか」というのがずぅーとありました。その間、署名は取れなかった。

三好…私も今回は戸別訪問はやらなかった。もっぱら小室山で歩きながらやった。そういうむずかしさがありましたね。

【Ⅱ】参議院選の結果

選挙前にマスコミの予想した通りの結果となった。

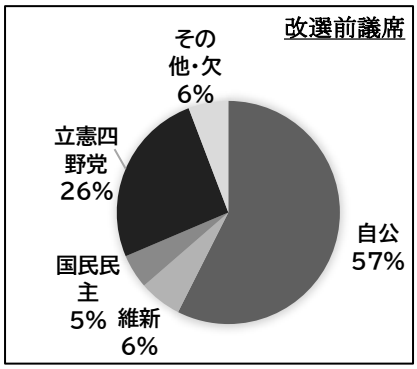
①与党の自公の圧勝、とりわけ自民党の顕著な議席増。(55→63)

②維新が改選議席を倍増。(6→12)

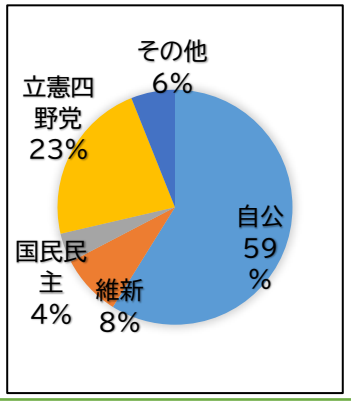
③立憲民主の低落(23→17)、共産(6→4)と国民民主(7→5)の議席減。

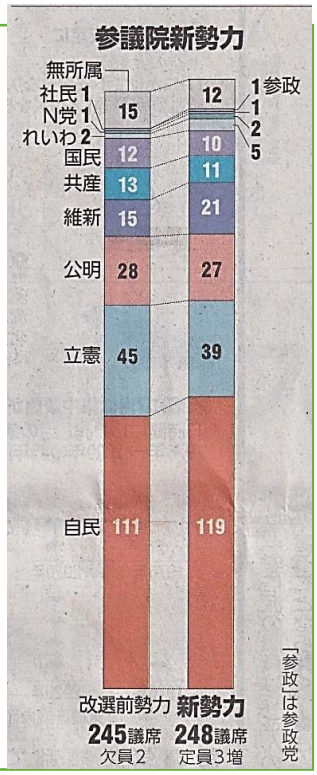
※自民と維新が議席を伸ばし、その分、立憲野党が議席を失った。

※※改憲派は国民民主を改憲政党に数えると、改選前から 2/3 を超える議席を占めていたが、選挙の結果、さらに改憲政党の割合が高まった。(68% → ‘71%)



⇒





【Ⅲ】選挙結果の分析

〈野党共闘の不発〉

三好…こういう結果に陥った原因の一つは野党共闘が不発に終わったということ。昨年 10 月の総選挙で共闘の成果が期待したほど上がらなかった、そのため立憲民主が共闘離れというか、距離を置き政策協定も結ばなかった。1 人区は 4 勝 28 敗。前回は 10 勝ですから、自民党が伸びた 6 議席は 1 人区の結果がそのまま出たわけです。

伊藤…比例は自民党は減らしていますからね。

三好…そうですね。一本化したところでも 2 勝しかできなかった。前のように全部で共闘が成立すれば勢いもつくけど、今回の場合は勢いもつかない。連合の姿勢もあって共闘が難しくなった。

三好…今後についてですが、立憲民主は泉代表に代わってから、政権与党との対決姿勢が薄まったように見える。自民党に代わる理念をどう打ち出せるか。立憲主義の原則を貫いて行けるか。経済政策で新自由主義からの転換をはっきり打ち出せるか。このあたりの立ち位置がはっきりしないと、じり貧に陥る可能性があるのではないか。立憲がちゃんとしないと、共闘も強く広がっていかない。

伊藤…政見放送の中で泉が「自衛隊は合憲です」と言い切って、「今更それを云々することではない」と言っていたので、そこまで言うかとびっくりしました。

三好…合憲だと言って、戦争法廃止の立場はどう

なのだ、集団的自衛権を認めるのか。そういう問題について不鮮明になってきている。

伊藤…社会党の時代から立憲まで、労働組合に頼っているということがありましたよね。でも、最近は労働組合への信頼感がなくなってきた。労働組合の関係で投票する人は減ってしまっている。今までの図式が成り立たない。そうすると、立憲がどこを立ち位置にするかというのがますます明確にならなくなる。

〈ロシアの軍事侵略〉

三好…もう一つ大きいのはロシアの軍事侵略。中国脅威論に結び付いて、自衛隊の強化・憲法改正を煽る宣伝が功を奏した。国民の多くが対外強硬論になびいて、強硬策を叫ぶ政党が支持を得た。日本人は「対外的危機には驚くほど敏感だけど、自国の加害についてはこれまた驚くほど鈍感である」。たとえば中国脅威論を盛んに煽るけれど、日本の兵隊が中国人を、民間人をどれだけ殺したのか、ほとんど知らないのではないか。

〈憲法改正の見通し〉

三好…憲法改正の見通しとしては、その可能性が非常に高まった。議席数だけでなく、岸田は改憲派の突き上げに乗っからざるを得ないのではないか。ウクライナ戦争の長期化や安倍の銃撃死を利用するような動きもある。こういう時に、国家の基本法を改正すること自体が問題だと思うけど、改憲派はこれ以上の機会はない、と臨んでいる。

以上が私のまとめですが、皆さんのお考え・意見をお願いします。

〈政策の一致点をつみあげる〉

伊藤…野党共闘以外に自民党に太刀打ちする道はないと思う。その場合立憲民主党がどういう態度をとるか。立憲民主党の地盤である労働組合がどんどん弱くなっている。そこだけではやっていけなくなっていると思う。立憲も市民に立たないとやっていけない、そこに舵を切るべきだと思う。共産党も野党共闘しなかったからたくさん得たかというと、そうではない。しっかりした野党共闘をつくり、そのなかで共産党が重要な地位を占めるということであれば、国民からの信頼を得ることが出来る。

持田千早…少なくても政策協定を結ぶようにならないと、市民サイドからの持ちかけもあるので、両党が接近していかなくては、と思う。自分の党を持ち直すためにも、国会の勢力図の前進のためにも。

戸田弘子…生活や暮らしの問題を基準に投票した人がどれだけいたでしょうか。あの投票率からみて、本当に困っている人たちが投票に行ったのだろうかて行ったのなら変わっていたはずですよね。

伊藤…本当に生活に追われている人たちは考える余裕もないというのが実情ではないか。

三好…組織されていないでしょう、そういう人たちは。

伊藤…組織されていない、政治に絶望していると思います。

斉藤昭夫…コロナで物価高で社会保障が削られ大変な状況のなかで、底辺で大変な苦労をしている人たちが投票所に足を運んだかど

うか。行っていないのではないか。世論とかみ合った論争が今度の選挙でできていたのか。物価高とか生活に直結した要求が今度の選挙で議論されたのかどうか。

戸田…今度の選挙で自民党が勢いを増して、庶民はますます暮らしづらくなりますよね。そういう視点から、暮らしの視点から訴えて、9条が変わればもっと暮らしが苦しくなる、と強く訴えていく。

伊藤…市民連合がこれから戦略を変えるみたいです。もっと広い範囲に広げる。消費税なんかを重視してくる。野党はみんな下げろと言っているから、そこでまとまれば力が出ると思う。そういうふうに一つ一つ細かくどんな戦いを組むか、とやっていかないと自民党に有効な打撃を与えるのは難しい。

持田…これからのわれわれの戦略の基本は政策の一致点を作り上げていって、立憲野党に「手を組めよ」と働きかけていく。その中で宣伝のアイデア出していったりしていく。

三好…さっき伊藤さんが立憲は組合から市民にシフトしないと先はないのではないかと言われた。市民とはどういう人かというと、組合に組織されていない非正規の人とか、生活に苦しんでいる人。そういう人たちに何を訴えるかというと、分配政策だと思う。立憲が自民党に対抗するには、社会民主主義的な分配重視を打ち出して底辺の人に訴えるような、投票に行っていない人に訴えるような党に理念を転換しないと生き残れない。そういう政党に脱皮していくなら、共産党との共闘も広がると思う。共産党は社会民主主義ではないけども、分配をもっと厚くするという点では共通している。「自衛隊合憲」では手を結べないかもしれないけれど、経済政策では提携できる。

持田…立憲は安保条約を認めているものね。軍事では振幅が激しいと思う。でも、消費税を5%に下げろとは言っている。そういう一致点をもっともっと増やしていく。

【*Ⅳ*】*これからの活動*

〈焦点は憲法〉

三好…今後の見通しですが、われわれの活動を含めて、どんなことが出来るか。

伊藤…憲法問題ですね。

三好…「9 条改憲 NO！市民アクション」ですから、憲法は当然。

伊藤…最悪発議された場合、どういう内容で出てくるか。だいたい四項目で出てくると思うのですけど、その中の 9 条のところは絶対認められない、という選別は必要かなと思う。「やはり 9 条を変えてはダメだよね」という世論が大きくなれば改憲発議を断念する可能性もないとは言えない。

三好…自民党は 9 条加憲だけはなんとしても、ですね。

伊藤…それが目玉で、それを通すために他の項目で他の政党を巻き込む、という作戦だと思う。だから一番の問題の 9 条 NO！を宣伝していく。

三好…われわれが注力するのは 9 条加憲、緊急事態条項も大事だけど。

〈防衛費倍増を争点に〉

戸田…9 条加憲反対というだけでなく、9 条が変わったらどうなるかということをかみ砕いて伝えることが必要ですよね。

伊藤…9 条改憲と今の軍事費 2 倍化は密接結びついている。そこを宣伝していく。

戸田…生活に結び付いている。

斉藤…これから三年というのは、この間の国政選挙がないということだけど、その間に防衛費の 2 倍化とか敵基地攻撃は今の力関係では粛々と進められる。それとセットだから 9 条改憲は。そういう具体的な防衛費とか

自衛隊の問題で国民の大きな塊を作って、安保条約の時みたいに毎日国会を包囲する。そういう大規模な運動をどうやって作っていくか。三年間選挙がないわけだから、その間、大規模な国民運動をどう作っていくかを考えていかないと。政党だけに頼っていたらダメだと思う。

伊藤…市民アクションが提唱して毎週デモをやるとかね。(笑い)

三好…毎週デモをやるっていうのはともかく…

伊藤…それぐらい関心を高めることをやる必要がある、と思いますね。

三好…いきなり発議ではなく、当面予算編成で防衛費を上げる。1 兆円上げる。それがどこにシワ寄せされるか、どういう結果をもたらすかということを宣伝していく。

持田…戦前の姿と今すごく似通ってきている。戦前化している状況ではないですか。増税の向こうに軍事費の増大がある。2 つは抱き合わせになっていた、という姿をわかりやすく宣伝する。次の予算でやってくるのは防衛費の大増額ではないですか。

伊藤…その財源をどうするのか。国債を持ち出すのか。見えないように福祉を減らすのか。

斉藤…消費税 15%とか。消費税 2%分だね、防衛費の倍加は。

伊藤…自民党も頭を使って、軍事費を増やすけどそれと憲法は関係ない、「皆さんの生活にしわ寄せはないですよ」と来る、と思う。だから、われわれの宣伝の仕方も、本質が分かるような宣伝の仕方を工夫しないと騙されてしまう。

戸田…「軍事費を増やすけど、あなたたちの生活は大丈夫ですよ」なんてありえない。誰が考えても。

三好…国債ですね。国債なら、直接の痛みはない、となる。でも、後で必ず跳ね返る。

時間もないので、アクションとして具体的に何をしていくか、ということは次回にまわします。今日はご苦労様でした。

寄稿　エルベの誓いを今こそ　Y.K

参議院選は自民党が予想を上回る議席を獲得しました。安倍元首相が暴漢に襲われ死亡したことに同情票が集まった結果もあったでしょう。私たちは平和憲法で守られている日本を変えようとしている勢力が攻勢を強めてくることを予測しながら、平和を愛する多くの人々とともに、運動を積み重ねてゆく必要があります。折しもロシアのウクライナ侵略によって、多くの尊い生命が奪われ戦争は続いています。この戦争を契機に日本も核兵器を共有すべきとか、防衛費の大幅増が言われ、平和憲法九条を廃止して戦争が出来る日本に変えようとする動きが画策されてきています。

日本は第二次大戦で 310 万人もの尊い命を失いました。亡くなった人々と家族の悲しみは計り知れません。もう二度と戦争を企てるような日本にしてはならないのです。新憲法は戦争の放棄、戦力の不保持と交戦権の否認を定め、平和国家日本を明確に規定しています。

1945 年４月、アメリカ中心の連合軍とソ連軍がナチス・ドイツを追い詰め降伏させました。この場所が「エルベ川」で、もう二度と戦争はやめようと誓った「エルベの誓い」は平和を守る有名な誓いとなっています。日本から、全世界から「ロシアはウクライナ侵略をやめよ！日本政府は平和憲法を守り二度と戦争への道を歩むな！」と声を大きくし行動しましょう。

寄稿　選挙の結果、私の思い

浦島しのぶ

参議院選挙は事前投票で済ませたものの、何も期待をしていなかったことにあらためて気づきました。おそらく与党多数の結果だろうと思っていましたが、案の定でした。選挙の仕組みですらあまりよくわかっていない私です。参議院と衆議院の違いも中学生時代に勉強したことを忘れてしまった程度で、もう少し政治に関心を持たなくてはと反省しました。テレビの政見放送も垣間見ましたが、こんな人もいるのかと驚く立候補者もいました。野党が細かく分かはれすぎていて、これでは与党に勝とうと意気込んでも太刀打ちできないのは当然です。同じような方針を持つ政党が力を合わせることができないと、日本の政治は変わりようがないように思いました。今回投票間近に安倍元総理の銃撃事件があり、あれよあれよという間に、同情からか安倍元総理の政治を美化するような雰囲気になってしまったことに危険性を感じました。自民党への同情票も少なからずあったのではないかと思いました。

「テレビで会えない芸人」上映会

憲法くんから託された

スタンダップコメディアン　松元ヒロさん

憲法前文をテーマにした「憲法くん」を演じ、絵本も出しています。生前、永六輔さんから「9条をよろしく」と託されたと語ります。

アジア・太平洋戦争で310万人以上の日本人と2千万人以上のアジアの人々が犠牲になったことにふれ、「こんなことは二度とするまいと、世界の人々の英知を集めてできたのが日本国憲法です」と話します。

今の政府は「国民の声を聞く内閣」と言うけれど、実際は「国民の声をキックする内閣」だと批判。憲法くんになり、こう言います。「この私をどうするかは、みなさんに託しましたよ」

テレビで会えない芸人に
「ひぐらし会館」で会える!!

政治を笑いのネタにしたためテレビ界からパージされた「松本ヒロ」の生き方と舞台活動を描く。

とき　**9月17日(土)14:00～**(13:30開場)

ところ　**「ひぐらし会館」3F ホール**
(桜木町 1-1-17　☎ 38-1511)

鑑賞券　**700円**/人　高校生以下無料

〈販売所〉　文泉堂書店　37-2970
岩上書店　53-0051

※ 8月10日以降販売します